

剣道を通して学んだ事

北海道

札幌平岡道場

小学6年 島田来輝

剣道を通して学んだ事とは何か。題名を書いてはみたものの剣道で自分が学んだ事を改めて文章にしようとする、とても難しい。僕が剣道を始めたきっかけは、僕の家では「小学校の間は武道をする事。」と父が決めていて、二才上の兄が剣道をやっていたので、僕も五才の時に剣道を始めました。最初に始めたのは上富良野という小さな町でした。父と一緒に先生の所へ行き「よろしくをお願いします。」と、緊張でガチガチになりながら挨拶した事を今でも覚えています。

僕にとって剣道は楽しいものでした。同じ学校で同級生だった友達とは、自分たちの剣道で良い所や悪い所を話し合う事が出来るライバルでもありましたが、幼い頃から剣道を一緒に頑張ってきた特別な存在でした。その気持ちは、今でもお互いに変わりません。そして、小学三年生で札幌に引っ越しをしてきました。現在所属している平岡道場では以前よりも稽古量が多く「辛いなー。」と思いつつ稽古に行く事が増えました。でも、そんな時に支えてくれたのが仲間でした。「一緒に頑張ろうね。」と声を掛けてくれた事が心の支えでした。道場での僕の同級生は、今は中学受験に向けて頑張っています。さびしい気持ちもあるけれど、頑張っている仲間を想うと自分も一生懸命頑張ろうという気持ちがわいてきます。平岡道場では、「気持ちの良いあいさつ」、「ありがとうの気持ち」、「剣道が出来る事への感謝」、この三つの心を大切にする事を教えて頂きました。その中でも剣道が出来る事への感謝を感じたのが、昨年九月六日に起った震度6の北海道胆振東部地震の時でした。ミシミシという音と大きな揺れで僕は起きました。電気が消え家の中も真っ暗になりました。家の中では時計が割れ、床にガラスの破片が飛び散り、しばらくその部屋から出る事が出来ませんでした。不安で寝る事ができずに朝を迎えました。朝早くから停電の影響で信号のついていない道を車で走り、いつも行っているスーパーに向いました。すごい人が並んでいて今までに見た事もない異常な光景でした。お店の中に一度に入る人数が制限されており買える商品の個数も決まっています、いつも行っているお店とは思えませんでした。断水と停電で不安な日が続いた中、道場の先生が避難食としてじゃがりこを持って、皆の様子を見に各家を回って来てくれました。僕の家は皆の家よりも電気の復旧が早かったので、携帯の充電や入浴をしに道場の仲間もきました。道場の仲間と話していると、不安が消えて、いつもと同じ楽しい時間を過ごす事ができました。この震災で稽古は二週間出来ず、大きな大会も中止になってしまいました。稽古が再開して先生や仲間と久しぶりに会えた時はすごく嬉しかったです。同時に剣道が出来る環境があるという事は当たり前ではないという事を、身をもって感じました。僕が二つの道場を経験して感じた事の一つは、自分の剣道を支えてくれているのは仲間の存在という事、もう一つはこれからの僕の剣道経験は人生の学びにつながるという事です。僕は今年小学校最高学年として道場を引っ張って行こうと思っていたやさきに、赤胴大会予選会で足を痛めて思い通りの剣道が出来なくなってしまいました、赤胴選手に選ばれたものの強化練

習や道場の稽古で迷惑をかけてしまっているのではないかと落ち込んだ時もあり、苦しかったけれど、今となってはこれも僕にとって大きな学びだった、と思います。これからも感謝の気持ちを忘れず、沢山の事を学んでいきたいです。